

一般社団法人日本医療薬学会  
平成 29 年度第 4 回定例理事会 議事録

一．開催日時：平成 29 年 8 月 28 日（月） 13 時 ～ 16 時 30 分

二．開催場所：日本医療薬学会会議室

三．出席者

会 頭：佐々木 均

副会頭：奥田 真弘、山田 安彦

理 事：青山 隆夫、伊藤 清美、大谷 壽一、崔 吉道、佐藤 淳子、  
千堂 年昭、武田 泰生、濱 敏弘、峯村 純子、宮崎 長一郎、  
山田 清文、脇山 尚樹

監 事：大石 了三、安原 真人

年会長：大森 栄

陪席者

顧 問：五十嵐 邦彦

事務局：星 隆弘

欠席者

副会頭：井関 健

理 事：出石 啓治、川上 純一、松原 和夫、望月 眞弓

監 事：山元 俊憲

顧 問：木平 健治、山本 信夫

四．議長：佐々木 均

五．会議の成立

定刻において、議長より開会が宣言され、本理事会は理事 15 名の出席があり、定款第 38 条に定める定足数を満たしており、適法に成立している旨が報告された。

六．議事の経過の概要及びその結果

1. 平成 29 年度第 4 回定例理事会議事録の確認

議長より、本年 6 月 12 日に開催された平成 29 年度第 3 回定例理事会議事録を基に議事内容の確認が行われ、修正等がある場合には本理事会終了時までには指摘するよう要請があった。

続いて、前回理事会から昨日までに開催された各委員会等の会務状況が報告された。

2. 協議事項

(1) 公益認定の取得に向けた検討、会計顧問の追加契約

議長より、先に開催した公益法人化検討特別委員会において、公益認定の取得に向けた協議を行い、五十嵐顧問（公認会計士）との有償顧問契約を年内限りとし、新たに

公益認定の取得に詳しい和田和夫氏（公認会計士）と顧問契約を締結する説明があった。また、五十嵐顧問には、平成30年1月より契約を伴わない顧問として、引き続き協力いただくこととなった。協議した結果、本件は了承され、和田氏とは本年9月より顧問契約を締結し、公益認定の取得に向けた作業を進めることとなった。

#### (2) 公益社団法人化検討特別委員会委員の追加委嘱

議長より、前協議事項の結果を受け、和田氏を公益法人化検討特別委員会のアドバイザーとして委嘱することが説明され、協議した結果、了承された。

#### (3) 医療薬学学術小委員会の公募に係る対応

山田(清)理事より、平成30年度医療薬学学術小委員会の設置に係る募集要項として、前回の理事会での意見を受け、医療薬学学術委員会での再協議を経て見直した要項案が説明された。また、同委員会から当該募集に際して、研究助成金を支給することについての相談があり、協議した結果、適切な支出が管理できるよう規定等を整備した上で、最大3年間の研究期間を通じて30万円を上限とする助成金の交付を認めることとなった。また、次回の理事会には、医療薬学学術小委員会に関する規程を提示し、審議を経てから本小委員会の公募を進めることとなった。

#### (4) 役員賠償責任保険、情報漏洩保険への加入

議長より、本学会の運営に際して、全ての役員は無報酬で職務を努めている中、役員個人が賠償責任を被る事態に陥った際への最低限の備えとして、公益社団法人等の役員を対象とした賠償責任保険への加入に係る説明があった。また、会員の増加、本学会が主催する年会や講習会への参加者の増加などに伴い、取り扱う個人情報が増大になっているため、個人情報漏洩時への賠償責任体制整備の一環として、個人情報の漏洩に係る賠償責任保険への加入に係る説明があった。協議した結果、両賠償責任保険への加入が了承された。

#### (5) 会費納入方法（コンビニ支払い）の追加と会員細則の改正

山田(安)副会頭より、会員委員会より会員サービスの向上への取組みとして、①年会費のコンビニ払いを導入し、利便性及び会費納入率を高める。②クレジット決済端末を購入し、年会会場における年会費納入方法の利便性を高める共に事務局業務の効率化に寄与することが説明された。併せて、①の納入方法の追加に伴う会員細則の改正案が説明され、協議した結果、全案件が了承された。

#### (6) 平成30年度事業計画案

議長より、第9回臨時社員総会での協議事項となる平成30年度事業計画案についての説明があった。協議した結果、記載事項の一部を修正すると共に、本理事会後にメールにて全役員に当該計画案を配信し、確認を経て確定させ、第9回臨時社員総会に諮ることとなった。

#### (7) 平成30年度予算案

山田(清)理事より、平成 30 年度予算案についての説明があった。また議長より、海外研修事業費については本事業の実施方法の見直しに係る議論を進め、来年度より実施できるよう予算を計上したことが説明された。協議した結果、本案は了承され、第 9 回臨時社員総会に諮ることとなった。

#### (8) 平成 29 年度薬物療法専門薬剤師・認定薬剤師認定試験の合否判定

青山理事より、本年 7 月 30 日(日)に実施した薬物療法専門薬剤師・認定薬剤師認定試験の実施報告及び合否判定結果に係る説明があった。本試験には、先行して実施された受験資格審査(書類審査)の合格者及び薬物療法専門薬剤師の新規認定申請者を合わせた 137 名が受験した。薬物療法専門薬剤師・認定薬剤師認定試験実行小委員会及び認定薬剤師制度委員会において従前の判定基準に則り合否について審議した結果、合格者 118 名、不合格者 19 名(合格率 86.1%)と判定したことが説明された。協議した結果、本判定結果は了承された。なお、当該試験の合格者のうち 1 名は薬物療法専門薬剤師の認定申請者であり、今後、継続して同専門薬剤師の認定審査が実施されるため、当該 1 名を除いた 117 名を 9 月 1 日付けで認定薬剤師として認定すること。さらに、当該合格者に含まれる認定薬剤師と指導薬剤師の同時申請者 9 名を、指導薬剤師として委嘱することとなった。認定薬剤師の認定期間は、2017 年 1 月 1 日から 5 年間である。(指導薬剤師の委嘱日、委嘱期間も前者と同一である。)

#### (9) 第 28 回年会に係るコンベンション会社との契約

議長より、公益社団法人の認定取得に向けた運営体制の整備の観点より、本学会として年会の収支状況の管理が必要となることが説明された。そのため、第 28 回年会の千堂年会長と協議し、同年会のコンベンション会社との業務委託契約については、本学会を交えた 3 者間で契約を締結することとなったことが説明された。なお、契約書の取りまとめについては、医療薬学会事務局が窓口となってコンベンション会社と協議を進めることとなった。また、今後、開催する年会についても同様の形で進める方針となった。

#### (10) 英文 HP、広報用パンフレット

武田理事より、広報委員会で協議を進めてきた学会 HP の英語版の掲載原稿案と毎年作成している広報用パンフレットの改訂案に係る説明があった。広報委員会で協議を進めてきた学会 HP の英語版の原稿案については、一部の表記に意見があったことや、薬物療法専門薬剤師、医療薬学学術委員会の概要に関する事項の追加掲載などの意見があり、今後さらに、広報委員会で協議を進めることとなった。また、パンフレットの改訂案については、了承された。

#### (11) 前年度会費の遡及納入に係る対応

山田(安)副会頭より、前年度会費の遡及の嘆願 2 件について説明があり、協議した結果、全ての嘆願を了承することとなった。

## (12) 薬物療法専門薬剤師の英語表記

奥田副会頭より、薬物療法専門薬剤師認定制度委員会で協議した薬物療法専門薬剤師及び同指導薬剤師の英語表記案として、先行する本学会のがん専門薬剤師及びがん指導薬剤師の英語表記に準ずる形で整備された表記案に係る説明があった。協議した結果、米国の専門薬剤師等の名称を参考に、海外でも通用する（認識性の良い）名称にしてはいかがかという意見があり、再考することとなった。

また、同委員会で議論された薬物療法専門薬剤師の認定要件の見直しに係る議論の経過が報告され、がん専門薬剤師の要件との整合性を含めた協議を進めることとなった。

## (13) その他

武田理事より、新たな海外研修制度の実施を検討する上で、従前の学会参加（ASCO）と施設研修（ミシガン大学病院）の形態を踏襲する形を採用する場合、当該研修の対象者をがん専門薬剤師に限定せずに拡大する際の対象となる候補学会に係る出席者への意見伺いがあった。具体的な候補案に係る意見がなかったため、今後、国際交流委員会で、海外研修制度がある日病薬との差別化も含めて協議することとなった。

安原監事より、本学会の専門薬剤師制度に係る第三者認証を受ける方向性について、検討すべきとの意見があった。

議長より、平成 30・31 年度役員候補者選挙への立候補について、本学会の更なる発展のために積極的に立候補を検討していただきたいという意見があった。

事務局より、来年 3 月 25 日に開催予定の第 10 回定時社員総会に至るまでに開催が決定している総会、理事会の開催スケジュールが説明された。

## 3. 報告事項

### (1) 第 27 回医療薬学会年会の準備状況報告

第 27 回大森年会長より、同年会の準備状況として、3 日間の日程表を基にプログラムの紹介と、一般演題として口頭 315 題、ポスター 1396 題、合計 1694 題を採択したこと、また優秀演題賞の候補として 50 題を選出したこと、また、直近の事前参加登録者数が報告された。

### (2) 第 1 回フレッシュャーズ・カンファランス開催報告

大谷理事より、6 月 25 日（日）に開催された第 1 回フレッシュャーズ・カンファランスの開催報告として、181 名の参加者があり、優秀演題賞として口頭発表 11 題、ポスター 9 題を表彰したこと及びその収支状況の報告があった。

### (3) 平成 29 年度 第 1 回薬物療法専門薬剤師集中講義の開催報告

奥田副会頭より、6 月 10 日と 11 日に開催された、第 1 回薬物療法専門薬剤師集中講義の開催報告として 196 名の参加と収支状況の報告があった。

### (4) 出版委員会からの報告

峯村理事より、疾患別薬物療法のテキストの編集作業に係る報告があり、使用する用語や配色等のデザインに係る意見伺いがあった。また、B5 版サイズでの出版方針が説明され了承された。なお、デザインについては、後日、学会事務局を通じてメールにてイメージサンプルが配信されることとなり、意見があれば申し出ていただくこととなった。

#### (5) 委員会報告

##### ・ 保険薬局薬剤師認定制度検討 WG

宮崎理事より、今年度第 2 回目となる保険薬局薬剤師認定制度検討 WG の議事概要として、本制度により認定する専門薬剤師のコンセプト、名称、研修制度、学術的な要件及び認定試験を導入する方針と、保険薬局薬剤師向けのクリニカルケースションの見つけ方から学会発表・論文への繋げ方などをレクチャーするワークショップの開催計画に係る報告があった。また、出席理事より、研修の実施方法の建て付けに工夫を凝らすことで、多くの者が研修を履修できるような仕組みが構築できるのではないかという意見があった。

#### (6) 後援依頼

議長より、本学会への後援依頼及び広報の依頼があった以下の 3 件について、了承回答した旨の報告があった。

- ・ 第 23 回オンコロジーセミナー（NPO 法人がん医療研修機構）
- ・ 第 15 回国際 TDMCT 学会学術大会・ポストコンgress会議
- ・ 第 20 回北海道大学薬学部生涯教育特別講座秋季講演会

以上をもって議事の全部の審議及び報告を終了したので、議長は 16 時 30 分に閉会を宣言し、解散した。